

った。事業漸く緒につかんとして、俄かに消滅したことは残念である。殊に福山のおかれた政治的背景や社会制度の相次ぐ劇変によって、その混乱の中での記録は充分でなく、出来うるかぎり先人の業績を調査し、その偉業をたたえたいものである。

(広島県廿日市市)

島邨俊一小伝

——悲運の精神病学者——

岡田靖雄

島邨俊一は、一八九九年（明治三二年）七月の京都帝国大学医科大学設置にあたり教諭がひきぬかれて京都府医学校が存立の危機にあつたとき、ふみとどまって医学校を存立させた人であり、また、島根県に狐憑病の現地調査をした精神病学者である。その姓は、島村とも島邨ともかかれている。谷中霊園にある養父および本人の墓碑は島邨とされる。井關七郎『大日本博士録』第二卷（一九二二年）でも島邨とされるが、学位記ほか公的文書では島村とされており、その他の親族は島村となっている。本人が邨の字をこのまれたようで、ここでは島邨と表記する。名の読みも、『大日本博士録』はトシイチとするが、ドイツ語論文ではシュンイチとなっている。

島邨は文久一年二月二五日（一八六二年一月二四日）

に東京でうまれた。当時は中村姓で、出身が群馬県か。洋

医学者島村鼎甫（一八三〇〜八一）は夫人遊喜子（能の喜多六平太の娘）とのあいだに子がなく、岡山の医家前川玄泉の娘幸子を養女としていた。鼎甫没後、遊喜子・幸子の後見役をしていた福澤諭吉・長與専齋・佐々木東洋・石井信義などがはかって、中村俊一を島村家の養嗣子としてえらんだ。

島邨は一八八七年（明治二〇年）三月一六日に帝国大学医科大学を卒業。同年卒業には猪子吉人・大澤岳太郎・栗本庸勝・高安右人・三浦謹之助などがある。榊俣教授は一八八六年一月二三日に精神病学の第一回講義をした。一八八七年一月二日に一学年上の三田久泰が榊教授の最初の助手となったのにつづいて、九月一〇日に島邨が助手になった（同時に東京府東鴨病院医員）。

助手時代には、一八九一年に島根県に出張して「島根縣下狐憑病取調報告」の大作をものしたのをはじめ、回帰狂、ヒオスチンの効用、水銀中毒、ジャクソン癩癩（榊と共著）、心臓病による精神病、インフルエンザによる精神

病の治癒、バセドー精神病など、多彩な問題につき発表した。

一八九一年末に東京を發してパリをへてベルリンに留学して、ジョルリ、メンデル、メーリ、ウィルヒョウ、ライデンなどにつき、メンデルのもとで「上行性神経炎ニ因スル脊髄炎」の、ライデンのもとで「橋部及ビ脳脚部特ニ動眼神経核ノ血液供給ニ就テ」の論文をかいた。二年ののちウィーンにうつつて、クラフト・エービング、オーベルン・タイネルなどについた。

一八九四年一月二日帰国して、同年二月三一日京都府医学校教諭、翌年二月一六日京都府立療病院神経及精神科部長。一八九九年九月一日療病院副院長。一九〇〇年五月二四日京都府医学校長。一九〇三年府立療病院院長兼任。教官がたりなくて島邨が内科理論・実験を担当したこともある。島邨の在任中に医学校・病院とも面目を一新して、一九〇三年六月二〇日に学校は京都府立医学専門学校に、療病院は同校附属療病院になった。

研究面では胸エンポリおよびジャクソン癩癩を呈した片山病の脳などについてのものがある。一九〇六年八月九日

京都帝国大学医科大学から医学博士の学位をうけた。また、京都府医学校は神経精神科からの収入でもっていた。

その病いはいつごろからか。一九〇八年の第七回日本神経学会総会は宿題報告者であったが、病氣欠席した。そして一九一〇年三月九日に病いのために校長・院長を辞職した。しかもなお学校の講師、附属療病院顧問・部長としてとどまったことは、学校・病院にとって島邨が不可欠の人であったことをしめしている。だが、一九一六年一月二八日に島邨はそれも辞した。

一九一七年一月一日は学内に建立されたかれの寿像の除幕式がおこなわれたが、本人は病中で出席できなかった。そして一九二三年（大正十二年）三月一〇日逝去。

京都にあって島邨はもっぱら学校・病院経営に力をさかれ、神経精神病学研究にはあまり時間がなかつたようである。島邨の精神病学講義の筆記録は二種をみたが、それは患者に対するあたたかい心遣い、がもられていて、「東の呉、西の島邨」と称されたこともうなずける。

ところで、かれの「島根縣下狐憑病取調報告」は、わたしの「狐憑病研究史——明治時代を中心に——」がでた

ちも無視されつづけている。わたしの論文をよんだ石塚尊俊は『憑きもの——日本民俗文化資料集成・第七巻』（一九〇九年）の解説に、憑きものの精神医学的研究は門脇眞枝（一九〇二年）が草分であるとかく。なんたる無視か！あやまった定説が一旦確立されると、その訂正は容易でないのである。

（精神科医療史研究会）